

あったか  な 人と心が きづくまち

<川 北>

〇●〇 川 北 〇●〇

川北地区は、伊尾木川と安芸川の間に抱かれたハウ
ス園芸が盛んな地区です。

昔は川北村、松田島浦、江川村の3地区があり、現
在は昔から住んでいる人が多い地域と、新しく家を建
て移り住んできた八幡、内原野団地など、生産人口が
安芸地区について多い地区です。

公民館を中心とした地域行事が盛んな地区で、伊尾
木川のいかだ下りや凧揚げ大会、公民館祭りやピアガ
ーデンは、三世代の交流の場となっています。



★ 川北地区の人口・地域福祉資源の概況 ★

世帯数	人口	65歳以上				介護 認定者	障害者	子ども
		高齢者数	高齢化率	独 居	世 帯			
1,355 世帯	3,212 人	901 人	28.0 %	91 世帯	85 世帯	181 人	207 人	414 人

社会資源	主な 公共施設	公共施設	川北公民館 江川公民館	集会所 等	西ノ島 清水寺岡 花 久保田 八幡 川北岡 内原野陶芸館研修棟
		学 校	川北小学校・清水ヶ丘中学校		
		保育所等	川北保育所		
	福祉・保健・医療施設等				
	(相談)	居宅介護支援事業所 うちはらの 居宅介護支援事業所 てくてく			
	(高齢者)	特別養護老人ホーム つつじの丘・デイサービスセンター いのくち ケアハウス 安芸・ヘルパーステーション てくてく デイサービスセンター 安芸・グループホーム 安芸 養護老人ホーム 清香園・デイサービスセンター アザレア 訪問看護ステーション キセキレイ・グループホーム あい ケアハウス せいらん			

★ 川北地区のいいところ ★

- なにより、子ども達のあいさつがすばらしい。小学生も中学生も、通学途中に向こうからあいさつをしてくれる。
- サークル活動やイベント活動が盛んで、昔からずっと伝統的に行事が続いている。
- 部落の役員が輪番制で、地域行事になんらかの関わりを持つことができている。
- 公民館便りを毎月発行し、川北地区の様々な情報を発信している。
- 公民館まつりや八坂まつり、お大師さまなど、神祭やお祭りが盛んである。

★ 川北地区の気になること ★



であい～拠点～

- お世話役が減っている。（若い人を集めて教えていく機会がない。）
- 青年層が市内でも多い地区だと思いが、役がつくとなると協力してくれない。
- 国道沿いの地区には集会所がない。
- 敬老会の参加者がなかなか増えない。（開催場所も公民館から小学校体育館に変更もしたが。）

- 部落の役員などの世代交代は、公民館活動にもつながるので、世代交代がうまくいっている地区を参考にしたい。
- 年齢に関係なくできること、やれることを発見したい。（役に立っているという思い。）
- 楽しみをつくる場が必要。
- 施設の地域交流スペースを活用していく。

ふれあい～共生～

- マンションや市営住宅に住んでいる人と、地域とのかかわりが少ない。
- 獅子舞などの伝統行事を継承してくれる後継者がいない。
- 若い人との接点が少ない。
- サロンや百歳体操の参加者が増えない。

- 公民館を中心に地域の交流が盛んに行われていると思うので、積極的に参加してもらいたい。
- 用事がなくても声をかけ合える地域にしていきたい。
- 若い世代が参加してくれる地区民運動会やビーチバレーボールを交流のきっかけにしたい。
- 学校で、ボランティア活動などの話をし、意識づけに取り組んでももらいたい。

かたりあい～協働～

- 地域にどういう人が住んでいるのか、新しい人のことは知らない。
- 地域にある団体の活動内容を知らない。
- それぞれの団体が、それぞれの団体の目的のために活動していてつながりがない。
- 施設がたくさんあるが、施設のことがよくわからない。

- 公民館には、多くの人たちが集まっているので、折に触れて話し合う機会を作っていくことが必要。
- 子どもたちにも公民館便りを読んでもらう。
- 実態把握活動を通じて、サロンや百歳体操などの参加者の呼びかけを行いたい。
- 子ども会活動に高齢者のサークルも参加するきっかけを作りたい。

ささえあい～共助～

- 消火栓や誘導灯、避難タワーなど、住民だけではどうしようもない設備の設置が必要ではないか。
- 避難場所までの避難道の整備が必要。

- 防災会を地域ごとに作って、防災の意識を持ってもらう。
- 東日本大震災から防災への意識が高まっている。
- 「みんなが世話役」との意識を持ち、犬のフンの始末やゴミの分別など、意識を持ってもらいたい。

★ 川北地区で取り組んでいくこと ★



1. 出会いのための人づくり・場所づくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
地域行事への住民の参加促進	獅子舞の復活と継承（地域の協力を得る。）	異なる年代がコミュニケーションを図り、地域の伝統文化を継承する。	若い世代の成長のきっかけや、地域の絆づくりにいかしていく。

2. 認め合い・理解し合える意識づくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
多世代交流活動の実施 （地区組織の活動情報の共有）	公民館だより等を参考に、川北地区内のグループやサークル、団体の一覧を作成する。	各組織の活動の情報共有化 （地区の組織や団体をつなぐコーディネート機能）	地区の行事や活動を多世代にわたって交流できる仕組みを作る。
	地区社協や子ども会、公民館が中心となって、高齢者と子ども、親世代が交流できる場を設定し、ふれあいを深める。 （敬老会、たこ作り、たこ揚げ、昔遊びなど）		

3. 暮らしを支える福祉のネットワークづくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
福祉サービスとの連携強化	地域交流スペース等、地区内の施設の機能を知り地域資源として活用していく。 （事業者による福祉サービスの研修会の開催等）		

4. 地域で安心・安全に暮らしていくための体制づくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
見守り・助け合い支援システムの活用	災害時に「だれが」「どこへ」「どのように」避難し行動するのか、避難支援プラン作成に向けた取り組み （地区内の要援護者共有）		個別計画の更新と見直し、連携体制の継続